



すこやかグループは皆さまのおかげで
創業40周年を迎えることができました

たくさんの出会いと たくさんのご縁に感謝して
これからも笑顔溢れる未来のために
私たちは挑戦し続けます

私たちが見つめる先に描くのは すこやかで輝く未来
身近な人の幸せがやがて世界中の人々の幸せに繋がると信じて

誰もが幸せに暮らす未来に、愛を。
BORDERLESS LOVING

オリジナル薬入れ すこやかキャニスターとは

すこやかグループ創業40周年の記念品として新たに製作されたオリジナル薬入れは、沖縄の歴史と伝統工芸、さらにSDGsから発想した商品です。

かつては処分するしかなかった車のサイドガラスを再利用したい拓南商事株式会社の想いと、ベテランの琉球ガラス職人から若手へ再生ガラスの技術を継承したいRGC株式会社の意図から生まれた「mado(マド)プロジェクト」に共感し、採用にいたしました。

UVカット機能が損なわれていない後部座席のサイドガラスを使ったスモークブラックの本体は、お薬が出し入れしやすい大きさにし、運転席・助手席サイドガラスの素材色がそのまま出現しているアイスグリーンのフタには琉球ガラスジョッキなどに用いられる大きな取っ手をつけ持ちやすいよう工夫しました。

世界にたったひとつのデザインの薬入れを皆さまの暮らしの中でご利用いただけますと幸いです。

沖縄のガラス文化

沖縄での吹きガラス製造は、明治時代に長崎や大阪からやってきたガラス職人によって伝えられ、薬瓶等の生活用品が作られたのが始まりとされています。

戦後、駐留米軍が使用したコーラやビールの色つきガラス瓶を再生してつくられた歴史を背景に、本来ならば不良品扱いとなっていた"気泡"や"厚み"も、アメリカナイズされた「一風変わった素朴なデザイン」として活かされ、そこから沖縄独自のガラス文化が誕生しました。

(上) オリジナル薬入れ すこやかキャニスター
(下) 1920~1960年頃まで使用されていた薬瓶

